

伯耆町図書館だより

季節は春から夏へと、一足飛びにその姿を変えて見えるのは、徒々、慌ただしく日々をやり過ごしているからでしょうか。けれども自然の流れの中で生きる草花たちは、そんな私たちをよこ目で見ながら、決して逆らうことなく、少しずつ穏やかに、忍び足で四季折々の姿を変えているようです。

雨の多いこの季節、毛糸でかがったような小花が房のように集まった紫陽花は、梅雨を彩る花として目を楽しませてくれます。花言葉は、花の色が変わることから「移り気」。しかし、「辛抱強い愛情」や「謙虚」などというのもあって意外です。今月は「愛」をテーマにした本を紹介します。心がゆりうごかされるような、たくさんの愛に出あってください。



<優しい音楽>
瀬尾まいこ/著
双葉社



家族、恋人たちの温かなつながりが心にまっすぐ届いて、じんとしみわたる・・・

<あなたへ>
河崎愛美/著
小学館



一枚の写真をきっかけに、少女は少年への思いを募らせていく。

<天使の梯子>
村山由佳/著
集英社



高校生をはじめ若い人には是非読んでもらいたい純愛小説。

<クラウディア奇蹟の愛>
村尾靖子/著
海拓舎



戦争によって人生を翻弄された1人の男と2人の女の物語。

<手をつないで眠ろう。>
竹本聖/著
広済堂出版



顔も名前も変わって、それぞれの場所で生まれ変わったとしたら・・・

<あなたの手のひら>
星野富弘/著
偕成社



移りゆく季節の花々によせて命の愛しさを描く詩画とエッセイ。

<ママが風になれたら>
岸川悦子/著
ポプラ社



ママは生きることが仕事！生きることを真摯に描くノンフィクション。

<ラブ・ユー・フォーエバー>
ロバート・マチン/作
岩崎書店



親子の愛情の絆を静かに語って感動を呼ぶアメリカのベストセラー絵本。

<いのちの音>
吉川良/作
PHP研究



ホームから転落した人を助けようとして命落とした留学生。